群教セ	E03 - 03
	平 14.206 集

将来の生き方を試行錯誤しながら考えられる総合的な学習の時間

――多くの人の意見や生き方に触れて深める「羅針盤交流」を中心として――

特別研修員　　神山　亮一

《研究の概要》

本研究は総合的な学習の時間において、将来の生き方を考えられる生徒の育成を目指す実践的な研究である。具体的には、興味・関心から考えた身近な課題を将来の生き方を考えていけるような課題作り、多くの人の考えや生き方に触れて追究を深める羅針盤交流を行う。そして、追究結果から得られた情報や人の生き方への共感を基に将来の生き方を考える「生き方発表会」を通して将来の生き方を試行錯誤しながら考えられる生徒の育成を目指す。

【キーワード：教育課程　総合的な学習－中　生き方　羅針盤交流　人との関わり】

Ⅰ　主題設定の理由

本校の総合的な学習の時間のテーマは３年間を通して「社会に目を向けて・・・、自分の将来に役立つこと・・・・」であり、目指す生徒像「自分の将来を見据え、自分の生き方について考えられる生徒」にせまろうとしている。生徒は、自分の興味・関心と本校のテーマを考えあわせて生徒それぞれが課題を設定し、追究していく。

本研究の対象である３年生（25 名）はこれまで、自ら考え、自ら課題を設定すること、追究の仕方や結果のまとめかた、他への提案の仕方、各種機器の使い方など総合的な学習の時間を進める上での基本的なことを身に付けてきた。また、追究活動で、学校外の人との関わりを持つことによって得られる専門的な情報やものの考え方に直接ふれることに対して価値を感じてきている。

しかし、これまでの実践では総合的な学習の時間のねらいである「自己の生き方を考える」点についての取組が弱いという課題があった。

そこで本研究では、活動全体にわたって「将来の生き方」を考えることにつながる実践を行うこととした。特に人の意見に触れたり、生き方への共感をしたりして、自分の生き方を考えていく活動を重視する。これは、同じ地域の仲間として育ってきた生徒たちが、中学校卒業後の新しい環境の中でも力強く生きていくために必要となる力であると考えたからである。本研究を通して生徒は、試行錯誤しながらも自分の活動を振り返り、位置を確かめ、多くの人の意見を取り込んで自分の進んでいく道を決め、課題解決をしたり、生き方を考えたりしていく。このような姿を「将来の生き方を試行錯誤しながら考えられる」と捉え主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

総合的な学習の時間において、①自分の身の周りの社会や地域で起こっていることから興味・関心のあることを考えあわせて課題を設定する活動、②「羅針盤交流」を通して自分の活動過程を振り返って見通しを持つとともに、生徒同士や教師、保護者、地域住民など多くの人の意見やアドバイスを得て追究を深める活動、③追究活動で調査したり、体験したりする中で得られた情報や人の生き方への共感をもとにそれまでの自分の生活と比べて考え発表する活動を行うことにより、将来の生き方を試行錯誤しながら考えられる生徒が育成されることを実践を

通して明らかにする。

Ⅲ　研究の見通し

１　自分の身の周りの社会や地域で起こっていることと興味・関心のあることを考えあわせて課題を設定する活動において、一人一人の生徒の考えや願いを生かしつつ基本的な問いかけを中心とした生徒と教師の面接活動を繰り返し行えば、課題や追究に向けて自分の考えが明確になるとともに「将来の生き方」を考えることにつながる課題設定ができるであろう。

２　「羅針盤交流」において①「羅針盤」に表現された内容に友達同士や教師が付箋紙を張り合ってアドバイスする活動、②追究活動でお世話になった人について「羅針盤人との触れあい号」に表現する活動、③黒保根村生涯学習村民フェスティバルにおいて「羅針盤プレゼンボード」を利用して、地域住民から意見やアドバイスをもらう活動などを行えば、自分の活動過程を振り返ってその後の活動の見通しを持ったり、人の専門性や人間性への共感をもとに、人の生き方を考えられたりして、追究が深まっていくであろう。

３　追究結果検討会において、追究活動で調査したり体験したりする中で得られた情報や人の生き方への共感をもとに、それまでの自分の生活と比べて考え出したことを「これからの私の生き方」として発表していくことにより、将来の生活の中で生かしていこうとする具体的な方向性が見え、それを実践していこうとする資質や態度が身に付き、将来の生き方を考えることにつながるであろう。

Ⅳ　研究の内容

1　基本的な考え方

(1)「将来の生き方を試行錯誤しながら考えられる」とは

本研究において「生き方を考える」とは、表１の様に考えた。目標は段階５である。生き方を考えることにつながる課題設定、人の生き方に触れる追究活動や「羅針盤交流」、「私たちの生き方発表会」などの機会を通して考えていけば、迷いながらも将来の生き方を徐々に考えていける。このような姿を「将来の生き方を試行錯誤しながら考えられる」姿と捉える。

表1　本研究においての「生き方を考える」ということは

段階１	自分の将来や身の回りの社会、地域、人などに具体的な関心を持っている事柄がある
段階２	自分の将来や身の回りの社会、地域で起こっていることを理解したり、色々な人がこだわりを持って生活していることがわかったりしている
段階３	自分の将来や身の回りの社会、地域に対して自分の考えが持てるようになったり、周りの人の生き方に共感したりしている
段階４	自分の将来や身の回りの社会、地域に対して持った考えを自分の生活を振り返って生かしたり、人の生き方に触れて自分自身の生活を向上させたりしている
段階５	自分の将来や身の回りの社会、地域に対しての希望や願いなどを持ち、望ましい生き方を考え、その実現に向けて取り組むと共に他にも広げていこうとしている

(2)　多くの人の考えや生き方に触れて深める「羅針盤交流」とは

課題解決に向けて追究活動を行っていく過程で生徒は、様々な疑問が出てきたり、行き詰まったりする。このような時に一人だけで問題解決に取り組むより、生徒同士や教師、保護者、地域住民などの多くの人から意見やアドバイスをもらって、そのことをもとにして次の活動を

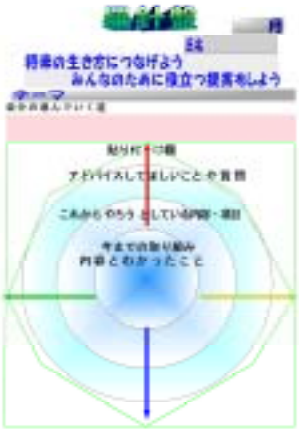
自己決定して進んでいくほうが追究を深めていけると考える。また、追究活動で多くの人と関わることによって、人の専門性や人間性にも触れれば、それに共感して自分の生き方についても考えられるきっかけとなる。これらのことを通して、自分のいる場所を確認し、周りを見て適切に判断して自分の進む方向を決めて取り組んでいくことを「多くの人の考えや生き方に触れて深める」と捉える。「多くの人の考えや生き方に触れて深める」ための手だてとして「羅針盤交流」を構想した。

「羅針盤交流」とは、活動状況を振り返って次の活動への見通しを持ったり、自分の生き方について考えるきっかけとしたりする自己評価活動と生徒同士や教師、保護者や地域の方から意見やアドバイスをもらい、それまで気付かなかった新鮮な考えや、幅広い年齢層の人々の考えに触れるための掲示板としての役割を持つ。具体的な活動内容およびそれぞれの活動でのねらいは表２に示すような三つの取組である。

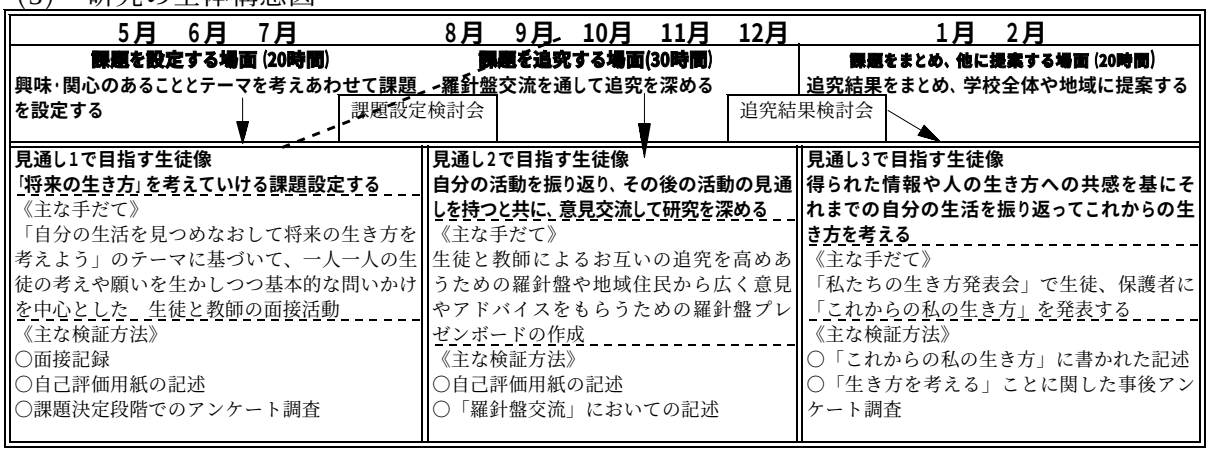
表２　「羅針盤交流」の内容とそれぞれのねらい

種　類	実施時期	活動の内容や活動でねらう効果
羅針盤 （右資料１ 参照） 羅針盤交流①	追究活動 中期	活動状況を振り返って見通しを持ったり、次の課題や悩みを明らかにする。それに対して生徒同士、教師が付箋紙に意見やアドバイスを書いて張り合いうことを通して追究を深める。
羅針盤　人との触れあい号 羅針盤交流②	追究活動 後期の前半	追究活動でお世話になった人についてまとめ、その活動の振り返りと共に、その人の専門性や人間性への共感を明らかにすることを通して、自分の生き方を考えるきっかけとする。
羅針盤プレゼンボード 羅針盤交流③	追究活動 後期の後半	課題名や追究の方法や内容、追究結果や提案等を表現して活動全体を振り返ると共に、地域の人や保護者に意見やアドバイスをもらうためのプレゼンテーションを行うことを通して新鮮な考えや幅広い年齢層の考えに触れられるようにして追究を深める。

資料１　羅針盤書式



(3)　研究の全体構想図



2　実践の概要および結果と考察

考察にあたっては、抽出生徒（Ａ子）の自己評価、羅針盤交流での記述、アンケート調査結果を中心に行う。Ａ子は、前向きで明るく、真剣に物事に取り組むことができるが、自分を積極的に表現することは得意ではない。将来は、福祉関係の仕事に就いて人の役に立ちたいとう希望を持っており、希望につながる具体的な知識を得たり、生き方を考えたりしていくことによって、将来の希望がより現実的に捉えられるようになると考える。

(1)「将来の生き方」を考えることにつながる課題設定ができたか。（見通し１）

ア　実践の概要

課題を設定する場面において、自分の興味・関心と「自分の生活を見直して将来の生き方を考えよう」のテーマに基づいて教師との一対一の面接を繰り返し行って課題を設定した。

生徒の興味・関心から考え出されたはじめの漠然とした課題に対して教師は、面接を通しての言葉かけの支援で、追究内容の見通しが持てそうな課題、さらには自分自身の生活に結びついていける（生き方を考えられる）課題になるような支援を心がけた。そのためにこれまでの教師の経験と面接初期の生徒の実態や反応から表３のような言葉かけを中心に面接した。

イ　結果と考察

Ａ子の課題は「介護の仕事に就くために～高齢化社会について考えよう～」に決定していったが、決定までに２回の変更をしている。

表3　教師の基本的な問いかけの言葉

①　自分の将来に役立つことですか
②　○○○の何について追究するのですか
③　これからのあなたの生き方に生かせそうですか
④　自分と共に社会やみんなのために役立つことですか
⑤　テーマを見ただけで、研究の内容の見通しが持てますか

Ａ子は、活動はじめの課題を考えていくつか挙げる５月の段階では、「福祉について」と「健康に過ごすためには」を挙げた。その後選んだ課題は、「福祉について」であった。この理由は、自分により関心の高いものであり、本校総合のテーマを考えたり、面接を行ったりした結果である。このときの面接で参考になった言葉かけは、課題決定後のアンケートにおいて①が参考になったと答えている。Ａ子は「福祉について」で追究活動を始めていったが、追究過程での面接では、「みんなにも役立つ内容にしたい」と話し、提案型の課題になるよう考えていった。また、追究過程で介護福祉士に関心が高くなってきたため、追究内容が見えるようにしたいとの考えから７月に「あなたは介護福祉士のことを知っていますか」に課題を変更した。追究内容が見えるよう絞り込んだ段階では面接の言葉かけの②と④が有効であったと答えている。この後の追究過程でＡ子は、「介護福祉士だけだとただ調べて説明して終わりになってしまい、みんなに提案することがわからない」と悩んでいた。しかし、悩みながらも調査活動を行ったり、夏休み中に村内老人福祉施設での体験活動などを行ったりしていった。そして９月の段階での面接では、体験活動から得た高齢化社会に対する考えと後に述べる羅針盤からの友達のアドバイスを参考にして、「介護の仕事に就くために～高齢化社会について考えよう～」と課題を決定していった。課題が決定する直前の面接における言葉かけは、③と④が有効であったと答えている。Ａ子は５月から９月にかけて試行錯誤しながらも、はじめに挙げた課題を絞り込み、内容の見えるような課題にしていき、さらに自分自身の生活に結びつく（生き方を考える）ことにつながる課題を面接を中心として設定していくことができた。Ａ子の課題決定までの流れと面接の関係を図１に示す。

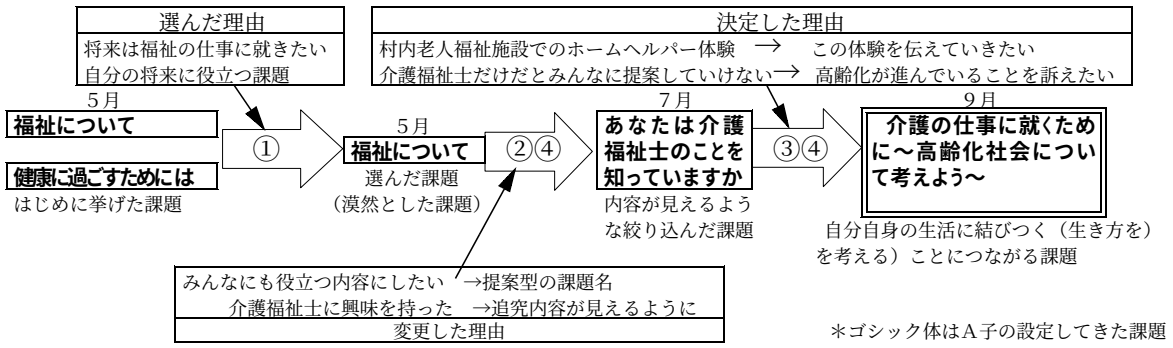


図1　抽出児の課題決定までの流れと面接の関係図

課題が決定した段階のＡ子の感想には、「この課題を追究して将来に役立てたい」との感想を書いている。このことは課題が自分自身の生活に結びつけて考えられており、「将来の生き方」を考えていける課題が設定できたといえる。また、「高齢化が進んでいることをみんなに実感してもらって、分かりやすくみんなに発表できたら良い」という記述があり、他にも広げていこうとする意欲を持っていることがわかる。

資料２　課題が決定した段階でのＡ子の感想

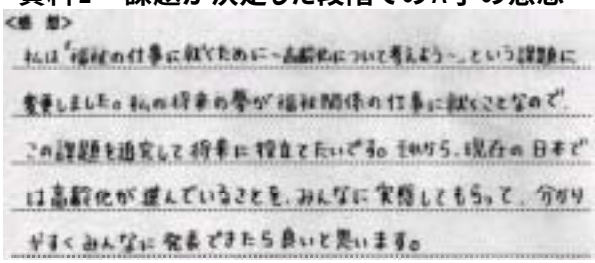
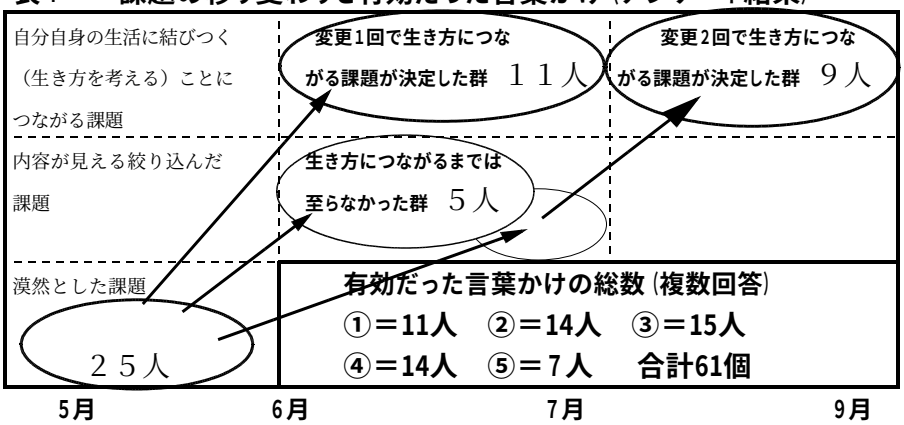

<感想>
私は「福祉の仕事に就くために～高齢化について考えよう～」という課題に変更しました。私の将来の夢が福祉関係の仕事に就くことなので、この課題を通して将来に役立てたいです。それから、現在の日本では高齢化が進んでいることを、みんなに実感してもらって、分かりやすくみんなに発表できたら良いと思います。

表４は生徒全体の課題の移り変わりの様子と有効だった言葉かけが何だったかを示している。生徒が課題を変更した理由として 25 名中、24 名が教師による言葉かけが有効だった答え、表のように 20 名が自分自身の生活に結びつく（生き方を考える）ことにつながる課題を設定できた。このことから、面接を通して多くの生徒が生き方を考えられる課題が設定できたといえ、教師の基本的な問いかけの言葉を中心とした手だてが有効であったと考える。また、面接での言葉かけの内容は、生徒に対しての教師の願いの現れであり、そのことが面接を通して生徒に伝えられたと考えることもできる。

表４　課題の移り変わりと有効だった言葉かけ（アンケート結果）



（2）　自分の活動過程を振り返ってその後の活動の見通しを持ったり、人の専門性や人間性への共感をもとに人の生き方を考えたりして、追究が深まったか。（見通し２）

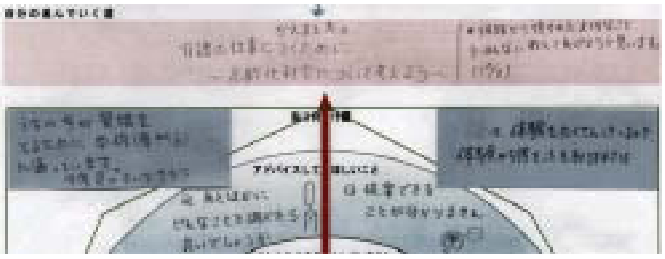
ア　実践の概要

羅針盤交流①「羅針盤」に記述された内容に生徒同士、教師が付箋紙を張り合ってアドバイスし、追究過程の振り返りと見通しを持つとともに互いに高めあう活動、②追究活動でお世話になった人について「羅針盤　人との触れあい号」に、「お世話になった○○さんへ」として表現し、人の専門性や人間性への共感を表す活動、③黒保根村生涯学習フェスティバル会場で、「羅針盤プレゼンボード」に課題名や追究過程、追究結果、提案したいこと等を発表し、地域住民から広く意見やアドバイスをもらったり、評価してもらったりする活動を行った。

イ　結果と考察

①Ａ子は追究過程で資料３のように「提案できることがわからない」という悩みを羅針盤に表した。それに対して「体験から得たことを取り入れては」との友達のアドバイスを得て、活動に取り入れると共に課題の修正にもつなげていったことが記述されており、追究を深められたといえる。また、このときの自己評価の感想では、「羅針盤を作ったら、今までのことが振り返られたし、これからのことも考えること

資料３　Ａ子の羅針盤に書かれた内容（部分）



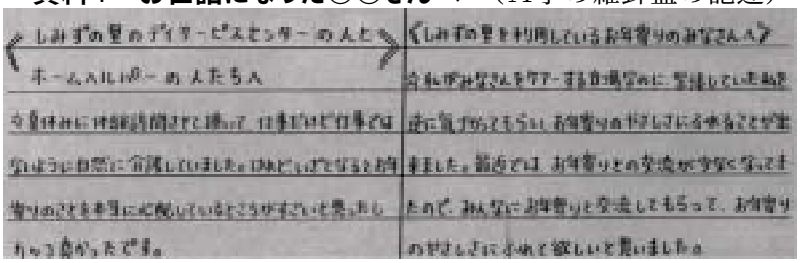
ができた。」との記述もあった。このことは、羅針盤の作成を通して、自分の活動過程を振り返り、次の活動への見通しを持つことができたといえる。生徒全体では、羅針盤作成前後の自己評価において、「活動を振り返ったり、見通しを持ったりできましたか。」の質問項目を比較すると表５のようにＡが増え、Ｃがいなくなり、羅針盤作成を通して望ましい方向に変容していた。これは、羅針盤の作成において、今までの取り組みをまとめ、これからやろうとしていること、疑問や質問事項が明らかにできたという活動の振り返りとその後の活動の見通しが持てたと考えられ、手立てが有効であったことがわかる。

表5　羅針盤作成前後の変化（自己評価）

	作成前	作成後
A	3	15
B	15	10
C	7	0

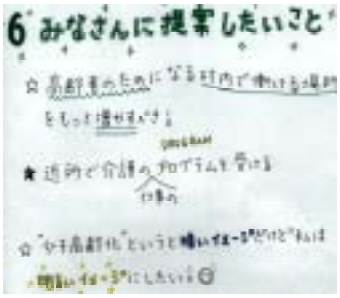
②夏休みに３日間老人福祉施設でホームヘルパー等の体験をしたことをもとに羅針盤人との触れい号にＡ子が表現した内容が資料４である。ここでは介護福祉士の仕事や人、お年寄りの優しさなどに共感していることが読みとれる。さらには、「お年寄りのやさしさに触れることができました」という共感の気持ちが、見通し３で実践した「これからの私の生き方」にもつながった。

資料4　お世話になった○○さんへ　（Ａ子の羅針盤の記述）



③羅針盤プレゼンボードでＡ子は、それまでの追究方法や内容、追究結果をまとめ、活動全体を振り返った結果をもとに、資料５のようなこれからの地域に対しての提案を考えた。ここにはＡ子の地域に対する願い、具体的な方策に加え、「少子高齢化というと暗いイメージだけど、私は明るいイメージにしたい」との記述があった。これは、追究活動で調査したり、体験したりしたことなどの振り返りを行った結果、Ａ子は自分のそれまでの生活を見つめ直して考え出したことである。このことから、Ａ子がこの活動を通して、将来の生き方に目を向けられるようになってきたことがわかる。

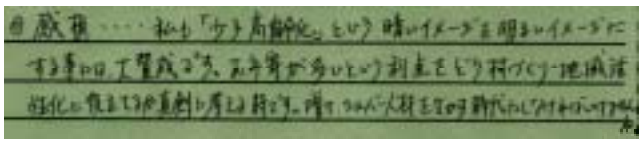
資料5　羅針盤プレゼンボード（部分）に書かれた提案



また地域の方から、提案の内容を認める感想が寄せられた（資料６）。地域の人にも認めてもらうことを通して、Ａ子は自分の追究活動や考え方に自信を持つことができ、追究や考え方を深めることができたといえる。

他の生徒の活動を地域の方にアンケート調査で評価してもらったところ、５段階評で「５大変共感できる 16 人（62%）」、「４共感できる 10 人（38%）」と高い評価を得た。この結果は、プレゼンテーションを通して活動や提案が認められ、生徒それぞれが、自分の追究活動や考えを肯定的にとらえられることにつながり、追究を深めることができたといえる。

資料6　地域の人から寄せられた感想



羅針盤交流①～③の活動を通して生徒は、自分の活動を振り返ったり、多くの人の意見やアドバイスをもらったりして見通しをもって追究活動を行った結果、ねばり強く取り組むことや、課題を自分なりの方法で考える力など、課題追究力が高められたといえる。追究力の高まった状態で活動全体の振り返りを行った結果、以前よりも自分が見えるようになり、将来の生き方

についても考えられるような資質が育ってきたといえる。

(3) 将来の生き方を考えられたか（見通し３）

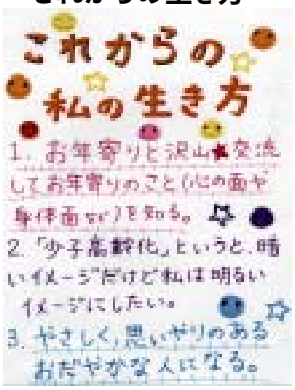
ア　実践の概要

追究活動で調査したり、体験したりする中で得られた情報や人の生き方への共感をもとにそれまで自分の生活と比べて考え出したことを「これからの私の生き方」にまとめ、羅針盤プレゼンボードとあわせて「私たちの生き方発表会」を行い、考えを共有した。発表会には生徒のほかに、保護者、地域の方々が参加して意見や評価をしてもらった。

イ　結果と考察

Ａ子は「これからの私の生き方」を資料７のように考え出した。このように考え出した理由をＡ子に聞いたところ、１は、追究活動や体験活動 から得た今後の自分の課題であること、２は地域に対しての希望であり将来の自分への願いであること、３は、将来福祉の仕事に就くと考えた時には普段からやさしく思いやりがあって、おだやかな人でいることが大切なことに気付き、またそれが今の目標だと話した。発表会の際に参加していた保護者から、「今後、具体的に行えることは何ですか。」との質問に対してＡ子は「今後も夏休みなどの休みの時に福祉施設でのボランティア活動を行っていこうと思っている。」と答えていた。これらの記述や発言は、手だてを通して将来の生き方について考えられていることがわかる。

資料7　A子の これからの生き方



その他の生徒の考え出した「これからの私の生き方」（抜粋）を表６に示す。

生徒たちは課題を設定し、追究をしていく中で得られた情報や人への共感を基に、それまでの自分の生活を振り返って、将来に向かって生きていくための具体的な方向性を考え出していることがわかる。また、考え出したことを､友達や保護者、地域の方々に発表し、意見交換したり、考えを共有したりすることを通して、自分の将来の生き方についてより明確に考えられるようになった。

表6　課題名と考え出した「これからの私の生き方」(抜粋)

課　題　名	考え出した「これからの私の生き方」
○○○村の環境を悪化させないようにするためには～守ろう僕らの○○○村～	○身近なボランティア活動への参加 ・缶拾いを気がついたらしたり、地区清掃などには進んで参加したりする ○環境問題の悪化を防ぐために自分のできることはする ・ゴミをなるべく出さないようにする　・車を買うときは排気ガスのきれいなものを選んだり買うように勧める ○環境を守るために自ら実行して他の人にも影響を与えられるようにする
野球で必要な心・技・体	○シーズンや季節ごとの食事の取り方を考えて気をつける ○ストレッチングを毎日行い、体を柔らかくして怪我の防止をする ○ピンチの時でも平常心でプレーできるように普段から心も鍛える
ベルマークを集めましょう～ベルマーク集めによるボランティアへの参加～	○これからも学校や村内の店等に回収ボックスをおいて定期的に回収していく ○ベルマークのことを調べてボランティア（自発的な）ということを理解したので、私はこれから生きていく上で、「自発的に生きる」を大切にしていきたい
薬と上手に付き合うには～将来薬剤師になったときのために～	○口の堅い人　秘密や約束を守れる人　（薬剤師には守秘義務があるので） ○責任感のある人（社会に出ると誰もが責任や役割があるのでそれをしっかりとできる人になりたい） ○気さくな人（取材させていただいた人は、忙しいのにとても丁寧にたくさんのことを教えてくれた。また、笑顔で接客していた） ○注意深い人　（間違うと人の命に関わることもあるので）

また、「私たちの生き方発表会」後に「生き方を考える」ことについて３年生初めと現在の自分とを比較するアンケート調査を行った結果は、表７のようである。Ａ子は、３年初めが段階２、「生き方発表会」後は段階５に変わったと答えており、自分自身の成長が自覚されていることがわかった。

表7　「生き方を考える」ことに関する生徒の変容 (アンケート結果)

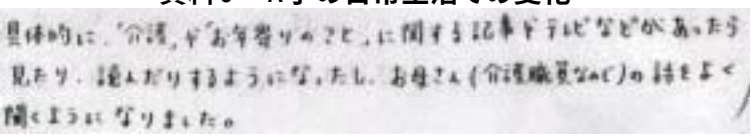
３年はじめ	生き方発表会終了後
段階１(11人)	①　段階１(１人)
段階２(10人)	①　段階２(１人)
段階３(４人)	⑤　④　段階３(９人)
段階４(０人)	②　③　段階４(５人)
段階５(０人)	④　③　②　段階５(９人)

注:○付き数字は人数を示す

生徒全体の変容では、追究の途中で大幅な課題変更を行った一人の生徒を除いて良い方向への変容が見られる。このことは活動全体を通して、成長が自覚され、将来の生き方を考えられたり、より明確な自分像ができつつあったりしているといえる。

そこで教師は、「活動を通して日常生活の中で変化したことはありますか。」と質問し、記述させたところＡ子は、資料８のように表現した。ここでは、活動前は夢や漠然とした希望であった介護福祉士という仕事に対して、より積極的に関わっていこうとする態度が表れてきていることがわかる。Ａ子は活動全体を通して、介護のことに関する知識を詳しく得ていったことに加え、自分自身のそれまでの生活を振り返って日常生活に生かし、さらには、将来に対しての生き方を考えられるようにもなった。

資料８　Ａ子の日常生活での変化


具体的に、"介護"や"お年寄りのこと"に関する記事やテレビなどがあったら見たり、読んだりするようになったし、お母さん(介護職員など)の話をよく聞くようになりました。

Ⅴ　研究のまとめと今後の課題

１　研究のまとめ

課題設定のテーマに基づいて生徒一人一人の願いを生かしつつ基本的な問いかけを中心とた教師との面接を通して、「将来の生き方」を考えていける見通しを持った課題設定ができた。羅針盤交流では、羅針盤等の作成を通して、自分の追究を振り返ることができたと共に、生徒同士、教師、地域の方からの多くの意見やアドバイスをもらったことを自分の追究に取り入れていく思考過程を通して追究を深められた。また、追究活動でお世話になった人を羅針盤人との触れあい号に表したことは、人の生き方に触れて自分の生き方を考えるきっかけとなった。「私たちの生き方発表会」で、追究結果と今までの生活を振り返って考えた「これからの私の生き方」を発表したことは、これからの生き方についての具体的方向が見え、将来の生き方を考えられることにつながった。

２　今後の課題

○　課題設定では、面接を行っていく過程において教師による言葉かけの具体的内容が整理されていった。そのため、初期の面接では生徒の願いや進行状況に適切な言葉かけが十分ではなかった。今後は願いや状況を整理したり、活動への見通しに結びつくような適切な支援が行える方策を探っていきたいと考える。

○　人と関わって自分の生き方を考えることは大変有効であることがわかったが、個人研究であるため、個々の生徒の取り組みにはばらつきがあり、人の専門性や考え方、人間性などの生き方に十分触れられない生徒もいた。生き方に関しても、得られたことを全員が共有できるようにし、共有された様々な人の生き方から自分の生き方について考えられるようにするとより深まりのある学習にすることができたと感じる。

〈主な参考文献〉

・日台　利夫　著　『人からはじまる総合学習』　東洋館出版社（1999）